

平成22年度「地域活動助成事業」助成対象者一覧

No.	所属団体名	役職名	申請者氏名	事業の名称	事業の意義及び目的
1	特定非営利活動法人エナジーフィールド	常務理事	中田 洋子	BIWAKOビエンナーレ2010”玉手箱～MagicalWorld～”	開催地である近江八幡は、豊田秀次により整えられた伝統ある城下町であるが、近年多くの貴重な日本家屋が取り壊され、町並みが損なわれつつある。BIWAKOビエンナーレは、町に点在する空き町家や、元工場などを展示会場とすることにより、訪れる人々に観光ルートではない住む町を町を再発見する機会を提供する。アートを架け橋として単なる町並み保全に終わらぬ新たな風土を創世することを目指す。
2	WATARASEArtProject	代表	皆川 俊平	WATARASEArtProject2010	2010年で銅の発見から400年を迎えた足尾では、産業（銅山）の衰退から、かつて労働者達がつくった多義的な地域文化が失われつつある。○アーティストインレジデンスとしてのコミュニティの再活用○封鎖地区（銅山による環境被害が深刻な区域）の公開○地域の創造性、社会環境の回復以上を目標に地域で活動を行なう他団体との協働により、地域に新たな価値を付与し、失われた地域文化を新たに創成する。
3	特定非営利活動法人創を考える会・北九州	理事長	岡野 正敏	街じゅうアートin北九州2010—産芸ものがたり・後編—	1. 北九州市の企業が百数年かけて蓄積した技術力を作家との共同作業によってアピールすることで工業地帯という暗いイメージを払拭させ、新たな魅力を発信する。2. 行政任せではなく積極的に街づくりをしている市民活動団体や大学と組み、草の根からの地域活性を促進する。3. 展示場所に市内の産業遺跡等を利用し、その場所や歴史に観客の関心を向けさせ、寂れた地域に人を呼び込んで明るい雰囲気とにぎわいを創出する。
4	豊島「食プロジェクト」推進協議会	会長	岡田 好平	豊島における、アートと食の融合を一体的に進める事業	産業廃棄物による風評被害を、抜本的に転換し、豊島が本来もつ、自然が豊であり、農作物が豊であり、優れた景観を持つ力を引き出すために、アートと食の融合を図る。アートプロジェクトと一体化した有機農業事業を行う。
5	瀬戸内国際芸術祭実行委員会	会長	真鍋 武紀	瀬戸内国際芸術祭	グローバル化等の流れの中で、瀬戸内海の島々の人口は減少し、高齢化が進み、地域活力の低下を招くなど、島の個性が失われつつある。個々の島固有の文化を失わぬよう、現代アートを道しるべに、アート作家や建築家と、島に暮らす人々との協働の下、芸術祭を開催することにより、島々の活力を取り戻すものである。また、芸術祭を世界に発信し、地域と世界が交わるきっかけにするものである。
6	特定非営利活動法人あおもりNPOサポートセンター	常務理事・事務局長	三澤 章	かれいざわアートICHIBAういむい未来の里／心をつなぐ未来へつなぐプロジェクトパート1	少子化や市町村合併により、廃校が増えてくることが世の流れです。私たちはこの廃校を地域でどのように活用していけるか、アートの力を借り、ほんの少し手を加えながら（有為（うい）の技）、あるがままの自然とたたずまい（無為（むい）な環境）を守り育て、廃校を地域コミュニティの中心に復活させ、これからのふるさとづくりのあるべき姿とその可能性を実証し、地域コミュニティと地域経済の再生を今後4年間かけて目指します。
7	十日町市観光交流課	参事課長補佐	南雲 洋一	第5回大地の芸術祭（平成22年度事業）	日本を代表する国際芸術祭「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、地域振興に資する代表的な「新しい芸術祭モデル」として国内外から高い評価を受けている。現代アートを基軸に住民・作家・サポーターが協働して地域活性化を図ることを目的としており、地域再生の道筋を示す先導的モデル事業として継続して開催することの意義は深い。
8	特定非営利活動法人東鳴子ゆめ会議	理事長	大沼 伸治	鳴子温泉郷2010年度プロジェクト	日本が世界に誇るべき「湯治文化」は今急速に廃れつつある。一方、多くの現代人は果てしないグローバル資本主義化により疲弊している。本企画は、温泉から直接エネルギーをもらえる湯治場において、様々な角度からのアートや音楽、そして人の力を媒介しながら、現代人にまさに必要な生きる上での客観的視点や気づきを生み出し、心身のバランスを調整してゆくことを目的とする。それは危機的な湯治場を未来に活かすことでもある。
9	アークプロジェクト実行委員会	会長	松本 和記	「ロッカールーム・プロジェクト」	ボランティアがアークプロジェクトの中にとどまらず、積極的に地域へ出て活動の幅を広げ、地域住民と交流できる環境を創りたい。そこで、今まで接点のなかったボランティアと「ロッカールーム」が拠る構える生涯学習施設「もりや学びの里」利用住民が主体的に交流・協働・発表する機会を設け、住民の日常的なクリエイティブと地域文化のダイナミズムを生み出すことを目指す。
10	寿オ尔特ナティブ・ネットワーク	事務局長	橋本 誠	KOTOBUKIクリエイティブアクション2010	住居や店舗の空洞化、住民の高齢化が進み、閉鎖的なコミュニティが形成され活力が低下しているトヤ（簡易宿泊所）街にアーティストらを誘致し、まちなかで様々な活動を展開することで住人の生きがい創出や地域の活性化につなげる。活動を対外的に発信することで、特殊な社会状況にあるまちの存在を多くの方に知っていただき、その将来を一緒に考え活動していただける方を呼び込むと共に、現代のコミュニティのあり方を問いかける。
11	上勝町	産業課長	横山 武志	上勝アート里山の彩生！ゼロ・エミッションに根ざしたアート活動	本事業は、平成19年度に開催した「上勝アート里山の彩生」の継続事業として、上勝町の掲げる「ゼロ・ウェイスト」の視点や自然豊かな里山景観に配慮しつつ、平成21年度に計画された作品構想を基に、芸術作家と地域住民が主体となった作品づくりを行い、地域コミュニティと地域経済の活性化、都市農村交流および定住促進に寄与することを目的とする。
12	AISプランニング	代表	漆 崇博	北海道アーティスト・イン・スクール事業～転校生はアーティスト～	本事業は、「学校とアートが繋ぐ地域のきずな」をテーマに、芸術家と児童、先生、保護者が芸術表現を媒介とした交流を果たすこと機会に、学校がより創造的な空間へと変化し、地域住民の集いの場として解放・利用され、学校や周辺を舞台とした多様な文化活動の拠点として機能することを目的に実施されます。2010年度は、実態調査や、他の文化機関との連携を行い、新しい事業システムの構築を目指しています。
13	船坂里山芸術祭推進委員会	西宮船坂ビエンナーレ総合ディレクター	藤井 達矢	西宮船坂ビエンナーレ2010	少子高齢化による農業後継者不足など地域住民に危機感が漂っていた最中、遂にシンボルであった市立船坂小学校が閉校となってしまった。そこで、地域活性化とともにこの地から様々な問題を抱えた現代社会へ提言を行うべく、アートを媒介とした様々なプログラムを実施する。人・自然・アートを密接に絡め、昨年のプレ展の経験を踏まえて人と人がつながる場をより多角的に提供し、新たな有機的ネットワークの萌芽を目指す。

14	特定非営利活動法人赤煉瓦倶楽部舞鶴	理事	森 真理子	赤れんがと海とともに生きるまち創造プロジェクト「まいづるRB」2010年度事業	舞鶴の歴史遺産である赤れんが倉庫群と親水地域を拠点として、アーティストと市民や企業、学校、行政が二年目の活動としてさらに連携を強め、新たな文化創造のまちを育み、地域力、創造力、教育力、経済力を高めながら豊かな生活を目指すことを目的とする。
15	三函座リバースプロジェクト実行委員会	委員長	檜山 直美	いわき湯本温泉「三函座」アート秘密基地革命	いわき湯本温泉でかつて野口雨情が創作活動をしていた様に、元来温泉街には文人墨客に愛されるホスピタリティーの高い、アートを育む土壌がある。「三函座」を滞在型アート制作・発表の拠点として活用すれば、温泉街の潜在的な魅力を引き出せるのではないかと。「三函座」の再活用はまた、炭鉱の歴史や市井の人々の楽しい思い出など、記憶を繋ぐ拠り所となり、街に厚みと興行きをあたえるのではないだろうか。
16	NPO法人BEPUPROJECT	代表理事	山出 淳也	星座型面的アートコンプレックス構想	「混浴温泉世界」以降、別府市はアーティストの移住が少しずつ始まり、小規模だが自主的なアートスペースの運営や(弊団体の運営ではない)、10名程度の雇用が生まれている。今後、確実な行政や大学、民間NPOなどとの連携によって、さらなる環境整備、まちなか居住、経済の活性化を軸として、観光開発や子育て支援、海外の教育機関等との提携も視野に入れ、別府独自の創造都市実現の第一歩とすることを目的とする。
17	街かど美術館実行委員会	実行委員長	平野 広	街かど美術館2011準備委員会	意義A 「芸術とはコミュニケーションの最大手段である」というのが我々の基本的な考えであり、間の年には時間を掛けて、多くの作家とのネットワーク作りが重要だ。目的B 今年の事業では、少しでも多くの作家との交流を促したい。そのためには交通費を確保しなければならない。またその結果を「まちかど新聞」やネットでひろげる
18	特定非営利活動法人鳥の劇場	代表理事	中島 諒人	鳥の劇場2010年度プログラム	年間プログラムの実施により、一年間を通しての劇場の継続的な活動を担保し、地域において必要な場として認知されることを目指す。そのために、活動の根幹となる作品製作においてその質をより一層向上させるとともに、上演以外にも幅広いプログラムを実施し、地域の中の多様な層の人々に足を運んでもらう。
19	神山アーティスト・イン・レジデンス実行委員会	会長	杉本 哲男	神山アーティスト・イン・レジデンス／瀬戸内アーティスト・イン・神山	国内外から招聘した芸術家が、地域住民の協力のもと創作活動に専念できる環境を提供し、ここで得た体験が今後の作家活動になんらかの好影響を及ぼすこと、芸術と呼ばれる分野や、そこに生きている人々との交流に恵まれることの少ない地域住民が、この事業を通じて新しい発見・新しい価値観・新しい交流を享受できることを目的とする。
20	財団法人札幌市公園緑化協会	理事長	浅川 昭一郎	SNOWSCAPEMOER6「冬のサバイバル」	6年目の今年は「冬のサバイバル」がテーマ。寒冷地では、さまざまな「ふゆまつり」が開催されているが、地球温暖化による変化の中、大きな打撃を受けている。温暖化の時代の冬のまつりが如何にあるべきか、そして、かつて阪神大震災が1月に起こったように、防災としての冬まつりの取り組み方も含め取り組む。
21	NPO法人沖縄県立美術館支援会happ	事務局長	岡田 有美子	ビデオ・パフォーマンスによるオキナワアートアクション！	豊かな自然・文化を有し、地政学的に常に翻弄されてきた歴史を経て地域固有の表現に恵まれている沖縄で、伝統を継承しつつかにかに新しい文化を創造し得るかという切実な問いに対し、映像・身体表現が拓く可能性を重要視した継続的なプログラムを構築、数年先の豊かな表現の土壌づくりを行う。芸術表現への市民の理解深化を目指し、地域の文化拠点である美術館と市民を結ぶ繋ぎ手のあり方を探る。
22	ゼロダテ／大館展実行委員会	代表	佐々木 隆幸	ゼロダテ／大館展2010	ゼロダテとは、秋田県大館市「ODATE」を「0-DATE」つまりゼロの日と読みかえ、新しい街の活動性を創造するための様々な地域文化芸術活動を意味する。4年目を迎える本年は、駅前から大町商店街まで続く旧中心市街地を展覧会場とすることで、「作品を創造する力」と「街が生きる力＝地域力」を生み出すことを目的とする。
23	取手アートプロジェクト実行委員会	実施本部事務局長	羽原 康恵	取手アートプロジェクト2010100本ノック！	表現ジャンルの様々な企画を継続的に実施して場を開き、地域住民に対して様々な体験・参加機会を提供するとともに、アーティストとの交流の中で発生する相互作用を「アートの種」として育て、それらを開花させる仕組み作りを行いません。一過性でなく恒常的に開かれた表現に触れる場づくりをアーティストを含む多様な立場の担い手により行なうことで、地域において人々の間に介在する表現の力を実測しようとする試みです。
24	特定非営利活動法人ダンスボックス	理事長	大谷 燮	「新長田アートプロジェクト～芸術拠点形成を通じたコミュニティ活性化事業～」	アーティストがいつもいる劇場<ArtTheater dB 神戸>の運営を通じて、(1)アーティストの創作の現場と、劇場から飛び出し地域の様々なコミュニティと協働する現場が運動し循環する場、(2)ここで創出された表現が新長田発のブランドとして各地に流通していく場と同時に、ダンスが記録されていく場、(3)地域に共有された物語や記憶を引き出し現在に紡ぐ場の創出を目指す。
25	八尾スローアートショー実行委員会	委員長、ディレクター	山口 尚之	八尾スローアートショー2010～地域とアートと学校と	新校舎移転(2009年1月)に伴い休校舎となった富山市最古の木造校舎。この学校で行ってきた「八尾スローアートショー」の成果は、地域や学校に認められてきた。そこで、この木造校舎を芸術を通じた地域づくりの拠点とする活用策を、地域住民・学校・芸術家・自治体と共に検討し数年後の整備・実現を目指す。節目である今、地域の意志をまとめる意義は大きいと考える。
26	スタジオ解放区	共同代表	林 僚児	「コザクロッシング」辺境レジデンスネットワークの構築と土着現代アートフェスティバルの開催	辺境の島々とのレジデンスネットワークの構築によって、沖縄の民俗性もっている独自の視点から発想するアートを発信する。旧暦文化による生活習俗からみると、日本よりも中国や台湾との関係性が濃厚なアイテムやリズムをもつ沖縄において、「土着現代アートフェスティバル」を開催する。また、アートが全国の商店街が抱える問題と向き合い、景観整備や商品共同開発の可能性。
27	MeToo推進室	室長	甲高 美德	大友良英ENSEMBLES2010(仮)	MeToo推進室発足3年目を迎え、これまで水戸芸術館と協働で行った事業の成果と課題を踏まえ、同室がよりいっそう主体的な立場から本事業に関わることで、アートプロジェクトを通して水戸中心市街地の地域社会の活性化をより明確に目指す。目標として、1. 同室若手メンバーならびに新メンバーの活動促進、2. 水戸中心市街地を拠点に個々に活動する市民(団体)間の連携の促進、3. 水戸芸術館との創造的な関係性の強化。